|  |
| --- |
|  |
|  |
| １　施設種別 |
| 障がい者支援施設　（旧　知的障がい者入所更生施設） |
| ２　ねらい取組みテーマ（１２）地域移行の取組み～法人内（３事業所）合同による取組み～ |
| ・同一法人内でも、各事業所による地域移行の在り方、捉え方に違いが見られる。また、各事業所の社会資源の提供先、提供方法にも違いがあるため、情報の共有を目的に法人内の３事業所合同による地域移行についての取組みを始める。また、グループホーム・ケアホームの在り方や社会資源についても、３事業所の地域移行の担当者だけで終わることなく、その他の施設職員にも定期的に勉強会を行い、入所施設の在り方を見直すきっかけ作りとする。・家族への働きかけも含め、説明会や見学会を実施し、理解を得る。 |
| ３　取組みの内容 |
| 　地域移行に関する合同の取組みについて各事業所の役割を明確にする。　・事業所ごとに、個別ケース・見学・研修担当の役割分担を行い、定例会議を発表の場とする。　・個別ケースについて：入所施設２施設から実際に移行できるモデルケースの発表　　　　　　　　　　　　困難事例も含め、可能性を限定しないこととし、利用者の動機づけをしっかりと行い、準備を備える。　・見学について：通所施設から提供資源の紹介・実際の事例ケースの紹介。　・研修会について：利用者・家族・職員に向けての啓発活動・勉強会の実施。　　　　上記の役割を年間計画の中に盛り込み、地域移行についての在り方を検討する。 |
| ４　取組み経過　　 |
| 　今年度の取組み内容について* 平成２５年　５月

　・通所施設より、現状のグループホームの報告。　・グループホームの現状では、夜間の見守りが難しく、グループホームを利用する利用者のマッチングが大切であることから、入所施設2施設はグループホームのバックアップ施設として協力してほしいことを伝える。　　　　・地域移行については、地域移行担当職員の意見・考えを所属する施設に持ち帰った場合、他の職員との温度差が見られる。　　再度、地域移行についての勉強や認識を深めるために活動しなくてはならない。* 平成２５年　７月

・研修会・見学会の対象を利用者・家族にも広げることを決定。　・個別ケースの地域移行に対する進捗状況について情報共有する。　　　意識調査　　　各施設の職員に意識調査を行う。（情報提供は書面にて各施設より、全職員に配付）　　　＜以下、意識調査の内容＞■知的障がい者の地域生活についてどう考えるか。（選択方式）　　　■職員の地域移行に関する知識・経験に関する質問（選択方式）　　　■地域移行を進めるにあたって、どのようなサービスが必要と思われるか（自由記述）　　　■地域移行検討会に求めるもの（自由記述）　　　　　　移行委員会を知ってもらう為の取組み　　・法人内の広報誌（各事業所ごと）を利用する。　　　・ホームページで紹介する。* 平成２５年　９月

　　　・１０月に行われる見学会について説明　　　・個別ケースの発表　　　　他法人の日中活動の場を見学された利用者に感想を書いて頂き、利用者の許可を得て発表を行う。　　　　移行については、法人内外問わず、利用者に合った資源を提供することとする。* 平成２５年　１０月・１１月

　　・見学会実施（法人内ケアホーム・グループホーム）　　　実際に見学に行かれた利用者からの意見として、「意欲的になれた」との回答が多数であった。７月に実施した意識調査の回答結果　・回収率：**A施設**　43.8%　　**B施設**　45%　・アンケートの結果について、地域移行について「大切なことである」と回答した職員が多数を占める半面、「反対ではないが、難しいと思う」と回答する職員も見られた。　・また、自由記述の項目より　「グループホームの体験」「見学会の実施」「夜間の対応や余暇支援の在り方」「勉強会の実施」について具体的に知りたいと答えた職員が多数であった。　　　　* 平成２５年１２月

　　地域移行担当者（ケース担当）：相談支援事業所が主催する地域の関係事業所の会議に出席。　　他法人のグループホームの空き状況の確認及び、他の法人の利用者の地域移行についてのケース会議にも併せて参加する。　* 平成２６年１月　予定

　　個別ケースの発表（本人の了解を得ている）と課題について共有する。　　※平成２６年１月これまで三事業所の地域移行担当者で定例会議をもち試行錯誤しながら進めてきたが、より具体的な地域移行の話し合いが持てる場を作りたいと、法人理事を含め、地域移行検討会の在り方について話し合う予定。　　 |
| ５　現状 |
| 　・現状は、経過の途中でもあるが、地域移行についての見学会・研修会・勉強会を重ねて行っている。　　また、個別ケースについては、実際に体験利用も含め、積極的に行っている最中である。　・基本的には奇数月に定例会議を行い、現状報告をしている。　・地域移行についての意識づくりは徐々にではあるが、職員一人ひとりが意識してきている。　・利用者のニーズに適した移行を最優先に考えている。 |
| ６　施設の振り返り・感想 |
| 　　平成２４年度より地域移行検討会が発足する。　入所施設での地域移行は、なかなか困難な部分も多く見られる。また、その施設の持つ機能、法人の取組み次第でも随分と移行に対する考えは変わる。現場の支援者へのアンケートの実施や勉強会、利用者等のグループホーム等地域資源の見学会の実施などで、地域移行に対する前向きな捉え方が職員一人ひとりに生まれたと思われる。また、個別ケースにおける現状も移行における準備段階、動機づけにおいて利用者・職員・家族ともに積極的になれた事に対しては、成功である。実際の課題は山のようにあるが、入所施設が終の住処ではなく、地域生活への移行に向けたきっかけ作りになればと考える。職員・利用者の意識づくりは勿論のことではあるが、より良いサービスの提供に繋げて行くことが、今後重要になってくる。これからも、地域移行委員会から発信する利用者の可能性について、共有するために日々研鑽して事業に取り組んで行きたい。 |

**ポイント**

・地域移行の取組みについて、法人内の事業所で共同して取組み、見学会、研修会、勉強会を重ねている。事業所間で連携し、情報の共有や職員や利用者へのアンケート調査、個別ケースの共有など実施する中で、利用者、家族、職員に対する地域移行への意識の啓発につながっている。

・一施設での取組みでは、限界もあり難しいが、複数の事業所で連携して取り組むこと、また他法人の資源にも目を向けていること、実際のケースの進捗状況など具体的な情報を共有することで、お互いに刺激にもなり、より活発に地域移行が進められる。

**![説明: C:\Users\KodamaR\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\ZUUHU4T3\MC900405972[1].wmf]()**

**![説明: C:\Users\KodamaR\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\ZUUHU4T3\MC900405972[1].wmf]()ポイント　　　委員会で記載**